

月例研究会（2010年9月29日）

労働雑誌『人と人』の発行状況  
—付『同窓会々報』・『主潮』  
発行状況

梅田 俊英

労働雑誌『人と人』は、大衆的啓蒙雑誌として1921（大正10）年4月創刊された。1921年といえば川崎・三菱神戸造船所争議がおこった年で、労働運動が大きく発展していく頃であった。同誌はそのようなときに労働運動を研究し、啓蒙していく雑誌として創刊されたと言えよう。発行部数は1万5千におよび、当時としてはそうとうなものだったといえる。

『人と人』の発行所は「東京市丸ノ内仲通6号館 財団法人 協調会」である。編集発行兼印刷人は、一貫して宮沢説成だった。宮沢は、協調会参事で教務課を担当した人物である。このように宮沢は仏道者の一人であったようである。

本誌には一貫して「労働雑誌」の表記がある。ただし4巻1号には表紙にはないものの奥付には表記があり、「労働雑誌・人と人」が正式名称だったと考えられる。

昭和3年1月号「編輯を了りて」で「此度計らずも此新年号を以て廃刊せねばならぬ運命に立到つた。執筆者及編輯同人が誌上に筆を振ふのも誌上を通じて読者諸君にまみゆるのも此新年号を以て最後である。」とあるので、「昭和3年1月号」が終刊号であることが確認できる。廃刊の理由は「何か外部から圧力が加えられた」（高橋彦博『戦間期日本の社会研究センター』柏書房、2001年、210頁）からと考えられる。

今回の復刻で協調会社会政策学院から発行された、『同窓会々報』・『主潮』も刊行する。1920年4月12日社会政策講習所が開設され、そ

れが1923年3月24日社会政策学院と改称されている。

『同窓会々報』は1927年8月、その社会政策学院の同窓会機関誌として創刊された。発行人は「新井五郎」、編輯兼印刷人は「川上勉」であった。発行所は「東京市芝公園6号地 社会政策学院同窓会」である。同誌は「非売品」で「会員ニ限り頒布ス」とされたものである。

労働雑誌『人と人』の誌面の特徴をとらえよう。まず言えることは労働問題に関する論文と解説記事が多いことである。大正期からの労働問題の論文・解説はかなり貴重なものと言えよう。

また、同誌の特徴として「労働文芸」欄を重視していたこともあげることができる。多くの労働の歌が選に入っている。労働雑誌・人と人』は当時の労働者に好意的に受け入れられていたということができよう。さらに、読者との対話を重視していたことが本誌の特徴でもある。

1921年4月から1928年1月までの6年間余と短期間ではあったが、労働雑誌『人と人』は各界に労働問題の存在とその解決の重要性を知らせる上で、重要な使命を果たしたといえるであろう。

これまでに述べてきたように、労働雑誌『人と人』の内容は重要なものであったが、一部をのぞいてあまり注目を受けてこなかったといわねばならない。本論の最後にその理由について述べておこう。まず言えることは、穏健な労使協調を目標とした協調会の発行した雑誌だったためもあろう。つまり、前述のように1920年代の日本において社会主義運動、労働・農民運動が活発に展開されたが、それらの諸運動とかわりを持ちにくかったことであろう。本論で検討したように同誌は多くの情報をもたらしてくれるものであったのである。今回の復刻を機会に、同誌の正当な位置づけと研究が進展することが期待される。

（うめだ・としひで 法政大学大原社会問題研究所  
兼任研究員）